学会誌のあり方

The Ideal Way of the Journal of Illuminating Engineering Institute of Japan

1945年生。1998年埼玉
大学大学院情報数理工
学専攻博士課程修了。
学術博士。現在、埼玉
工業大学工学部電子工
学科助教授。照明工
学・教育システム情報
工学。

正会員 荒木 慶和
Yoshikazu Araki

キーワード：福祉・環境対応成熟化，グローバル・IT化

21世紀を迎え、照明学会85周年記念事業を企画するにあたって、学会のグランドデザイン（基本的経営理念）をもとにこれからの学会誌編集を考えてみました。

図1に照明学会の位置付けの概略を示します。まず、会員について考えると一般会員・賛助会員の会員層が業種として電力・照明業界、建築・設備関係の産業から色彩・心理関係のソフト・サービス産業まで、職種としては開発・設計・製造・デザイン・販売などと多様化しています。学会運営について考えると、逼迫した財政事情から事務局員は少数精鋭、学会活動は限られたアクティブメンバーで行われ、全体として厳しい運営が強いられています。また、産業界との関係を考えて、学会の研

究・開発・調査活動によるシーズを産業界の製品開発・生産・販売のニーズに結びつける情報交換・協力関係が必要だと思ひます。

学会活動の事業のうち、学術・技術情報などの掲載を主な任務として、学会誌が発行されています。このうち、和文誌の論文号・年報号および英文誌は主に学術・研究情報、和文誌の一般号は主に技術・製品情報を掲載しています。

ここでは、上述した照明学会の会員・学会・業界のそれぞれの状況を考慮し、グランドデザインで述べているキーワードを中心に、主に和文誌一般号（以下本誌と略記します）のこれからのあり方を考えます。キーワード（視座）として、福祉・環境対応成熟化（思いやりと優しさ）とグローバル・IT化（国際化と情報化）を取り上げます。そして、前者は人間尊重的ゆとり重視（ソフト面）、後者は技術革新的発展指向（ハード面）のアプローチといえるかも知れません。これらは対立する概念ではなく、それらが調和しながら相補い共存することが大切です。

さて、これらの視座を踏まえ、具体的な本誌の考え方・対応を6W1Hの視点から考えてみましょう。これらの視点は言うまでもなく、WHY・WHAT・WHO・WHOM・WHERE・WHEN・HOWです。これらは相互に関連しているので代表的な例を想定して表1にまとめました。

第1の視座（成熟化）から、本誌が会員に読まれるためには、会員が興味を持ち、役に立つ情報が掲載されていることが大切です。このために、会員層としての女性会員・非技術者を対象に興味をもてる企画・記事：「楽し

図1 照明学会の位置付け

表1 学会誌一般号を考える視点

項目	説明	備考	視座	
			成熟化	情報化
WHY	会員サービス・情報の発信		○	
WHAT	会員が必要とし、興味を感じる内容		○	
WHO	最適な執筆者	非会員を含む		○
WHOM	幅広い多様化した会員	女性会員、非技術者	○	
WHERE	学会誌、その他のメディア	電子媒体を含む		○
WHEN	定期的に、また必要に応じて随時	インターネット		○
HOW	紙・印刷物、電子媒体、ネットワーク	カラー、図、写真	○	○

いあかりのヒント」,「やさしい照明技術」を掲載していきます。この「やさしい」は「易しい」とともに,「優しい」企画になればと思います。興味を持てる記事内容として,文字情報だけでなく,写真・図・イラストなどを多用したカラーページの増加により,視覚的・感性的に親しみを感じる工夫が必要でしょう。

また,第2の視座(情報化)からは,会員の意見などをタイムリーに把握し,これらを反映した学会活動が行われ,このような情報と会員に役立つ情報を時機を逸せずに会員に届ける仕組み作りが欠かせません。これには,紙・印刷物の媒体だけではなく,便利で即時性のあるネットワーク環境を利用し,メールによる原稿・意見などのホームページへの投稿,アンケートなどによる学会・会員間の双方向コミュニケーションの試み,学会誌の電子化・電子ジャーナル(さらにオンラインジャーナル)への対応が必要と考えます。関連他学会に比べて,照明学会はホームページの充実,学会誌のカメラレディ化といった電子化・情報化が遅れています。これらを解決するためには,現在の事務局員,委員では人数が少ないの

で,多数の会員によるボランティアが必要です。協力していただける人材を確保するためには,一般会員を始めとする非会員も含めた幅広い階層の人材を募り,その得意分野,原稿執筆分野,協力可能分野などのデータベース作りという情報化に取りかかることが急務と考えます。

学会活動が活性化するためには,学会を通しての各種情報,学会誌のコンテンツ(情報)に魅力を感じ,その情報にアクセスする会員が増えることが不可欠です。そして,学会と会員との情報共有化・コミュニケーションが進めば,学会による情報収集と学会への情報提供(ギブアンドテイク)という,学会・多数の会員のボランティアがともに利益を得ることができ,学会を中心とした活動が盛んになることと思います。

学会誌編集委員会として,理事会・各種部会・委員会,一般会員と協力して学会誌を通して,学会の発展に貢献したいと考えております。会員の皆様のご支援,ご協力をお願い致します。

楽しいあかりのヒント

正会員

田中 信代
Nobuyo Tanaka

大阪樟蔭女子大学英米文学科卒。現在,小泉産業㈱大阪本社照明事業本部で照明研修システムの構築に従事。

21世紀を考える時「地球へのやさしさ」「街へのやさしさ」「人へのやさしさ」を配慮し,限りあるエネルギーを有効に活用し,人に役立つあかりの提案が不可欠となってきました。

快適な生活を送るための大切な要素として最近「あかり」の役割が改めて見直されています。地球規模での環境問題への対応,人が快適に安心して過ごせる街づくり,高齢化社会への対応が大変重要なテーマとなっています。その上,「あかり」は使い方により人間の暮らしや気持ちに豊かにしてくれます。

最近,会員から「照明学会誌は,研究者,照明メーカー,建設業者,などの方々には参考になる内容が多いが,レベルが高すぎ興味の分野と違っていた。」とか,「技術的な面も大切だが一般の人でも分かり易く読める内容だと良いかと思う。」といった声を多く聞くようになりました。特に,商業主義によるお金を掛けた建物の照明の紹介が目立ってきているとの指摘もいただきました。

照明学会誌の読者の方の中には,「照明コンサルタント」の資格を取得するために通信教育である「基礎講

座」を受講され,照明について勉強する事で,住宅はもちろん,店舗,事務所などの生活に役立つ照明計画,コンサルタント的な能力を身に付けられ,現在までに約24000名の方が認定を受け,各方面で活躍をされています。さらに「専門講座」も終了し,ますます高い知識と技能を研鑽され,世の中の役に立つ仕事に従事されている方も多数います。

このような認定を受けられる方々として,照明の研究者のみならず,ここ数年来,クリエイティブな仕事に携わる人,建築士,照明デザイナー,インテリアプランナー,インテリアコーディネーター他,色彩専門家,ファッションや化粧品関係者,カメラマンなどがおり,これらの方々が照明に関心を持ち,また必要を感じて勉強されています。

このような読者層の広がり,特に女性の読者が増えているにもかかわらず,従来の「照明学会誌」の内容はハード面が多く,ソフト面が少ないとの声も多くあります。このような読者の方々に興味を持って読んでいただけるような誌面をつくりたく,この度,新企画として7月号より一般号に毎回,タイトル名「楽しいあかりのヒント」を掲載することに致しました。多数の読者の方々に楽しんで読んでいただけたらと考えています。

タイトル名として「個人でできる照明設計」とか「あかりの一口アドバイス」といった,いろいろな候補を検討致しましたが,「楽しいあかりのヒント」が最適との意見が多いため,これに決定致しました。